

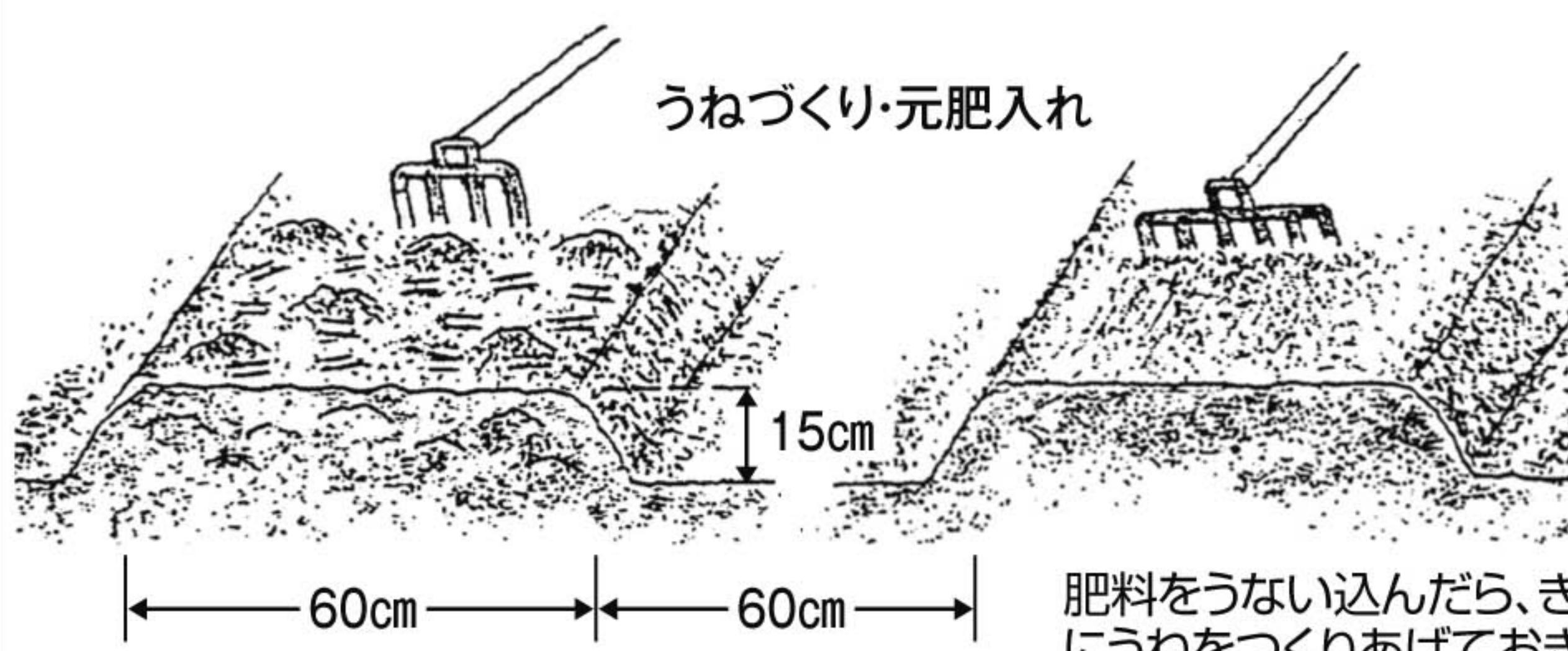
イチゴ(地植栽培)

の作り方

JA愛知
グリーンセンター
協議会

畠の準備

植えつけの2週間前に JA真いの少ない牛ふんたい肥 と JA天然貝化石(有機石灰) を、1週間前に JAこだわり肥料(イチゴ) を施しよく耕します。

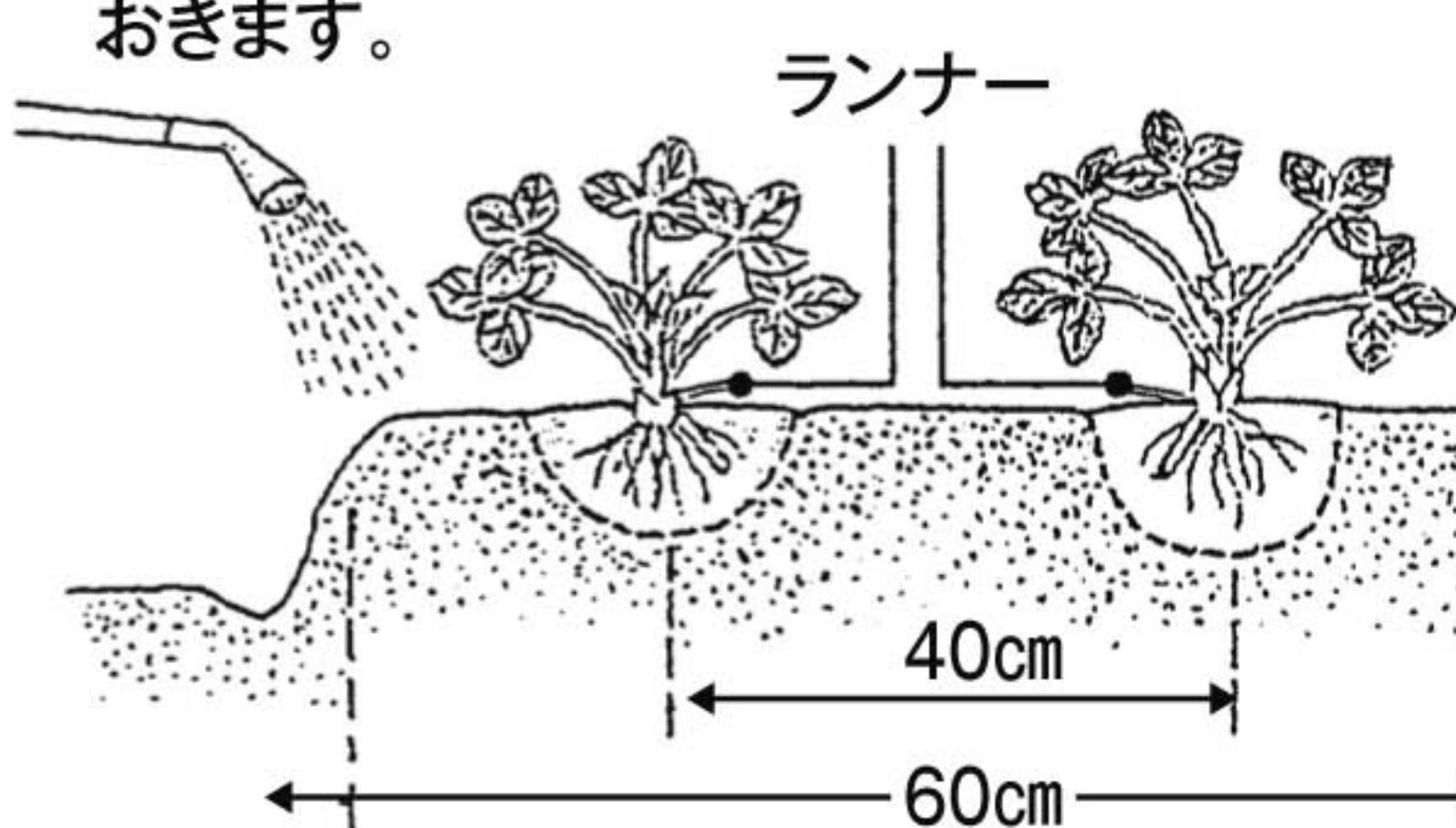


1 イチゴの根は肥やけしやすいので、元肥は必ず植えつけの半月以上前に施し、15cmくらいの深さによく混ぜ込んでおきます。

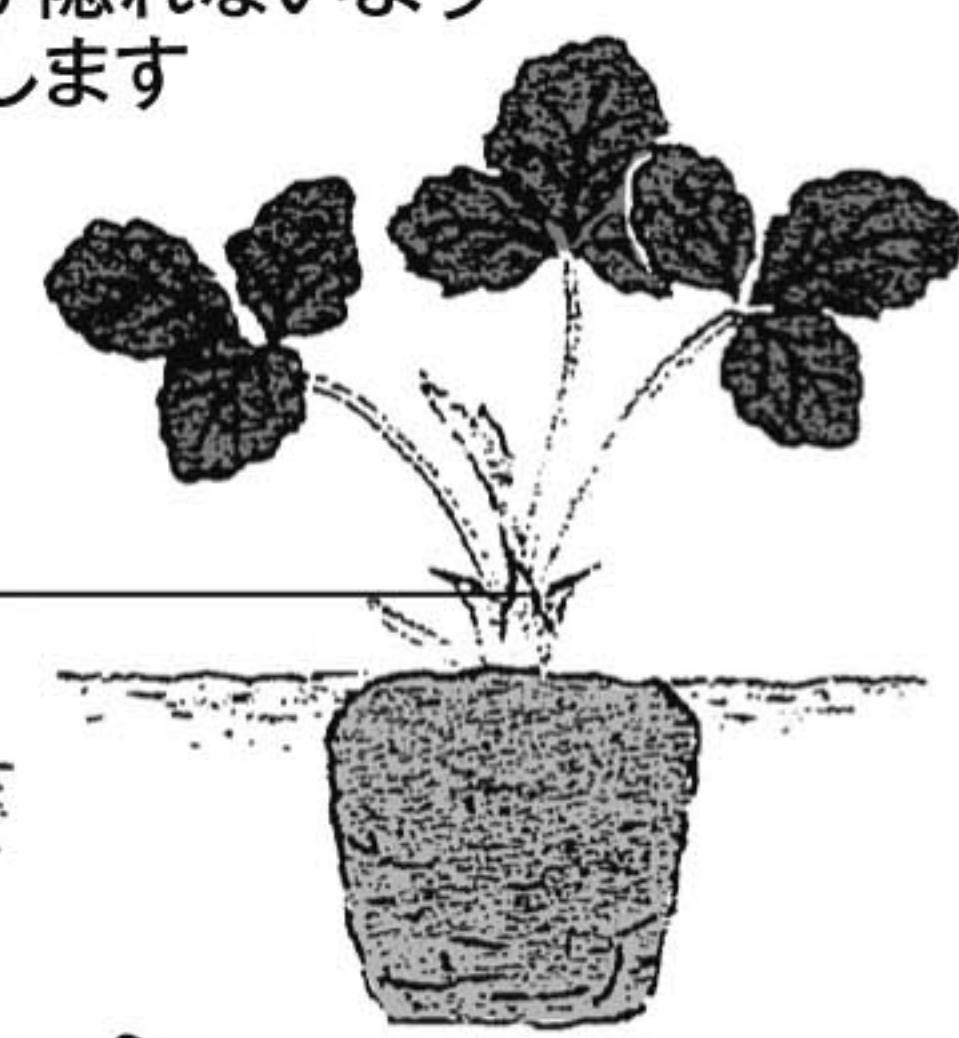
肥料をうない込んだら、きれいにうねをつくりあげておきます。

植えつけ

植え終わったら、たっぷり灌水しておきます。



*2 クラウンが隠れないよう浅植えにします



植えつけ時、ランナーの跡の反対側に実がつくるのでランナーをうねの内側に向けるようにします。

*1 ランナー：親株から伸びてきた走りづる
*2 クラウン：葉の付け根の冠状の部分、茎

2 クラウンが隠れないように浅く植えます。クラウンまで埋め込んでしまうと新葉がでにくくなり、生育不良の原因になります。

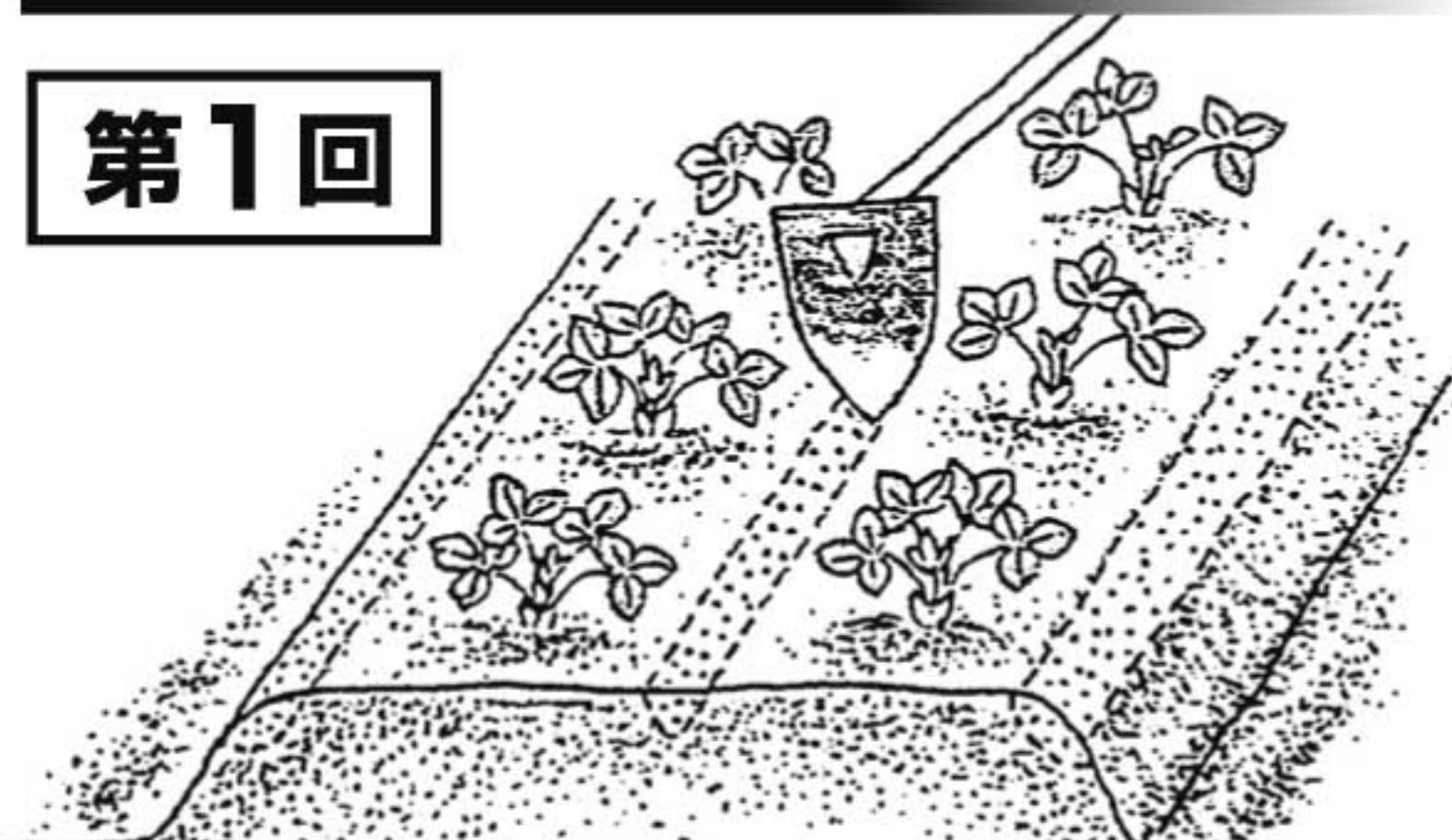
ミラクルバイオ肥料
菜園ニーム粉末タイプ

ミラクルバイオ肥料とニーム粉末を植物のまわりに囲むように敷きつめます。



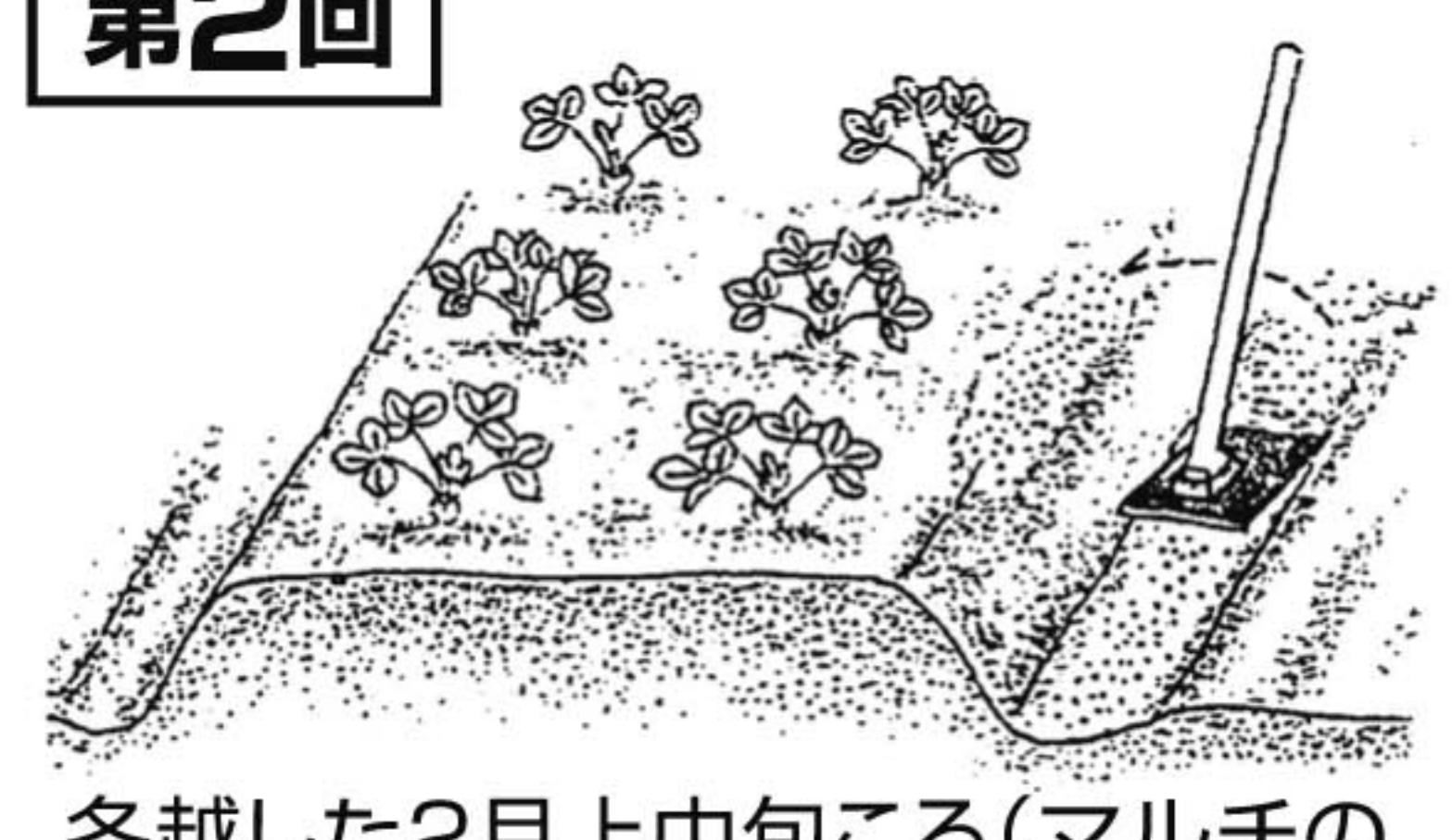
追肥

第1回



活着して盛んに生育はじめた11月上旬ころ、株元から10~15cm離れたところに施し、軽く土に混せます。

第2回



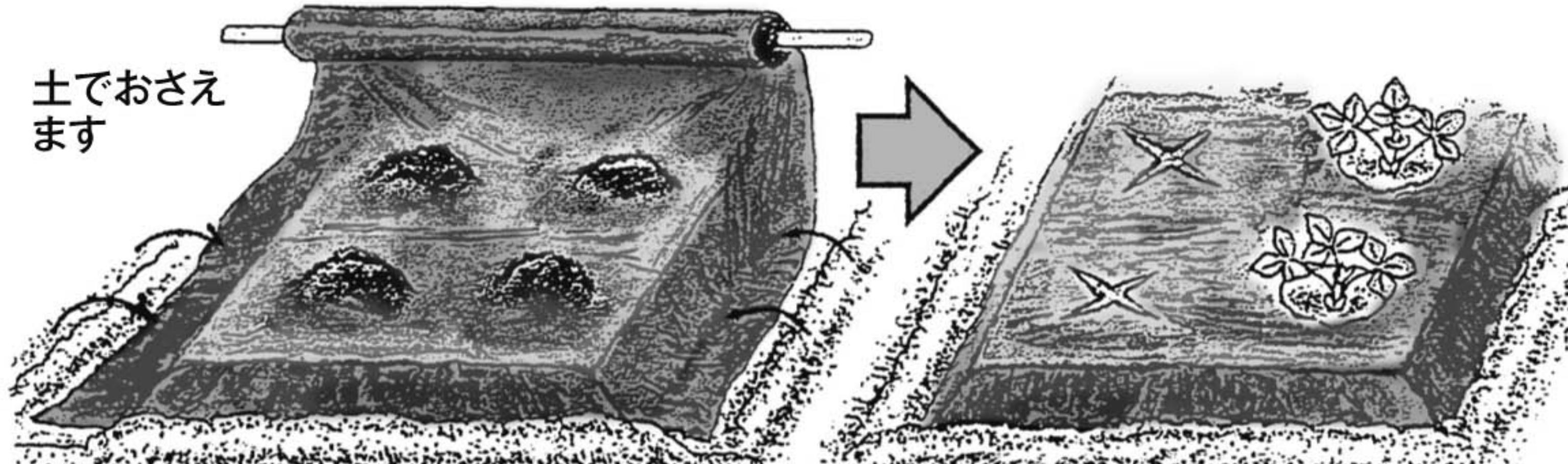
冬越した2月上旬ころ(マルチの前)にうねの肩の部分に肥料をばらまき、通路の土をかぶせます。

3

根の伸びる先に適量の肥料を与え、春の急な生長に備えます。

マルチ・トンネルかけ

2月上旬になったらマルチフィルムで地面を覆います。



黒色のポリエチレンフィルムをイチゴのうねの上にすっぽりかぶせ、四周の裾を土でしっかりとおさえます。黒色シルバーストライプを用いればなお効果的です。

4

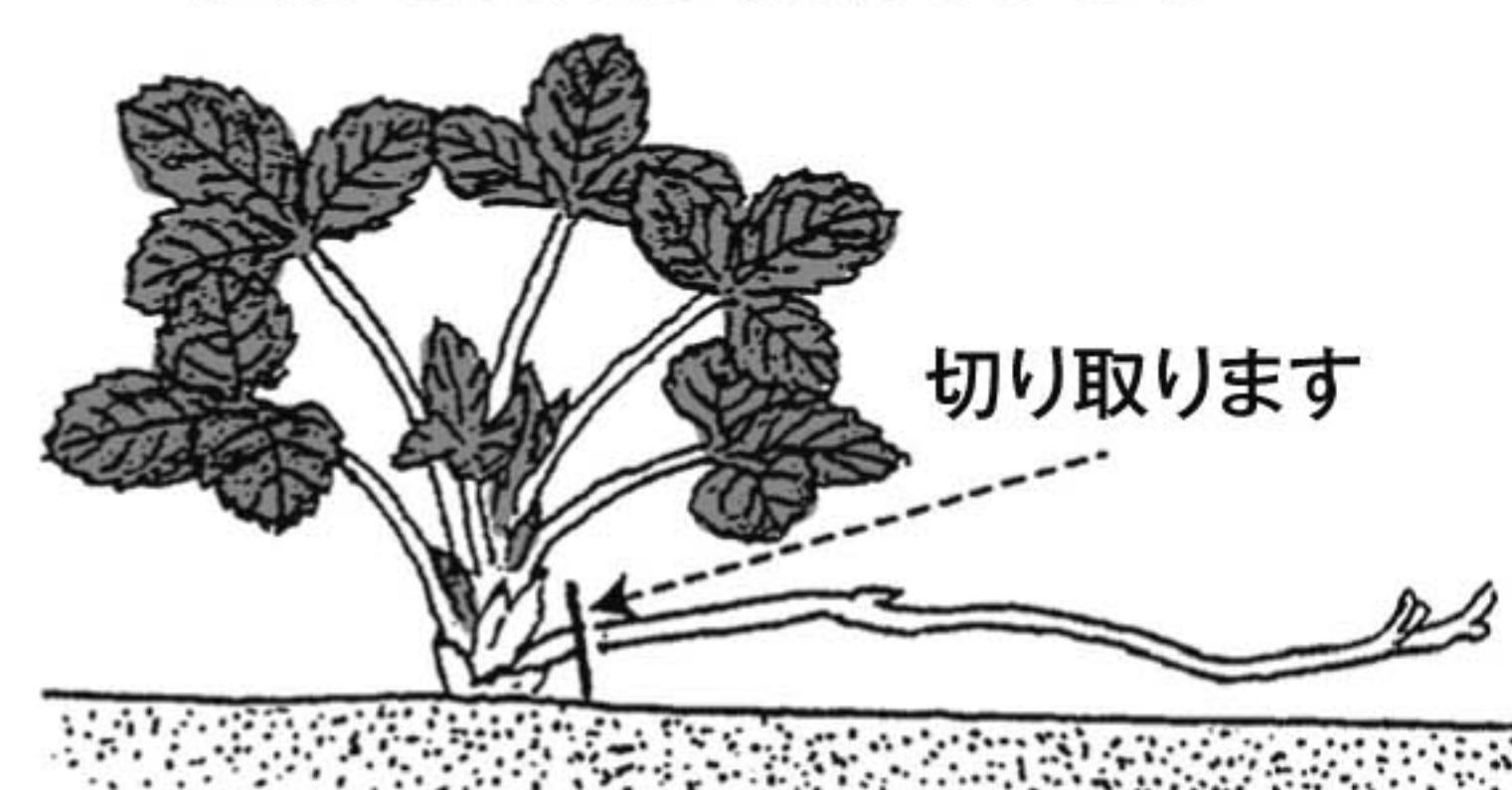
黒色フィルムでマルチし、地温上昇をはかります。雑草をおさえ、土壤水分を保ち、土のはね上がりによる果実の汚れも防ぎます。

管理

かき取ります



春になり、ランナーが伸び出してきたら切除します。



切り取ります

花粉つけ

花が早く咲いて訪花昆虫がないときは、筆の穂先でなぞり雌しへに花粉をつけてやると形のよい実になります。

